

# Weekly report



株式会社 ミンカブソリューションサービス  
東京都港区東新橋1-9-1

## 為替週間展望 = ドル円は高値圏でのみみ合いか

[6月3日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		5月27日～5月31日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	157.00	157.71(29)	156.38(30)	156.89	-0.10
ユーロ・ドル	1.0838	1.0889(28)	1.0788(30)	1.0817	-0.0030

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	38,487.90	-158.21	日本10年債利回り	1.073	+0.068
ダウ平均株価	38,111.48	-958.11	米10年債利回り	4.546	+0.081

=====

<来週の主要経済統計等>

- 3日 中国5月財新製造業PMI  
独5月製造業PMI 確報値、ユーロ圏5月製造業PMI 確報値  
英5月製造業PMI 確報値  
米5月製造業PMI 確報値  
米5月ISM製造業景況指数、
- 4日 豪第1四半期経常収支  
スイス5月消費者物価指数  
独5月雇用統計  
米4月製造業受注、米4月米月雇用動態調査(JOLTS) 求人件数
- 5日 豪第1四半期GDP  
独5月サービス業PMI 確報値、ユーロ圏5月サービス業PMI 確報値  
英5月サービス業PMI 確報値  
米5月ADP雇用統計  
米5月サービス業PMI 確報値  
カナダ銀行(BOC) 政策金利  
米5月ISM非製造業景況指数
- 6日 豪4月貿易収支  
スイス5月雇用統計  
独4月製造業受注指数  
ユーロ圏4月小売売上高  
欧州中央銀行(ECB) 政策金利、ラガルド総裁記者会見  
カナダ4月貿易収支  
米第1四半期非農業部門労働生産性指数  
米4月貿易収支、米新規失業保険申請件数  
カナダ5月Ivey購買部協会指数  
欧州議会選挙(6-9日)
- 7日 日本4月勤労者世帯家計調査  
中国5月貿易収支  
日本4月景気動向指数速報値  
独4月鉱工業生産指数、独4月貿易収支  
ユーロ圏第1四半期GDP 確報値  
カナダ5月雇用統計  
米5月雇用統計

【前回のレビュー】堅調な米経済指標やFRB高官の発言などから、早期に利下げに動くとの観測が後退しており、ドルの下値を支えそうだ。日本の10年物国債利回りは上昇しているものの、国債買い入れオペの減額見送りなどから円売りに傾きやすくなって

いる。こうした中、ドル円は緩やかに上昇する展開となりそうだが、157円以上では介入警戒感も高まり、大きく上値を伸ばすのは難しいとした。

#### 【FRB高官のタカ派発言がドルの下値を支える】

米連邦準備制度理事会（FRB）当局者の発言はおおむね早期利下げに消極的で、インフレ率次第では利上げの可能性を示唆する発言まで出ている。米経済指標はまちまちながら大きなドル売りにつながるほど弱いものはない。

28日にミネアポリス連銀のカシカリ総裁は「利下げを開始するにはインフレ率の低下を確認できるデータがさらに数か月分必要となる」との見解を示した。一方で、「インフレ率が低下しなければ、追加利上げの可能性も排除しない」と早期利下げ期待をけん制した。30日にNY連銀のウイリアムズ総裁は「現在の政策金利は適正な水準」「利下げを急ぐ必要はない」と述べている。

米10年債利回りは上昇傾向を続けてきた後、30日は4.54%前後に伸び悩みを見せた。28日はカシカリ総裁のタカ派発言や5年債入札が不調で4.54%前後に上昇、30日には7年債入札が不調で4.61%前後まで上昇した。30日は米第1四半期GDP改定値や、個人消費改定値の下方修正で4.54%前後に低下した。

一方で、国内では長期金利が上昇基調で推移しており、1.00%を超えた後もじり高基調で推移している。29日には1.08%台まで上昇、30日には一時1.10%台に乗せた。もっとも円買いにはつながりにくくなっており、29日まではドル円もクロス円も上昇が続いた。ただ、30日は日経平均が一時900円超の下げとなるなど、株安を受けてリスク回避の円買いに傾いた。その後、米株安や米長期金利の低下もあって、30日の海外市場でドル円は156.30台まで下落した。

6月第1週は米国では、米雇用統計を中心として注目度の高い経済指標の発表が相次ぐ。6月11～12日に開催される次回の米連邦公開市場委員会（FOMC）の内容は、ここでの一連の経済指標の結果に左右されそう。次回、あるいはそれ以降のFOMCでの利下げ観測の高まりや後退は、いずれもデータ次第となりそう。

米経済指標の結果に影響を受けると見込まれる中、米経済指標は伸びが鈍化するにしても緩やかな鈍化にとどまり、極端に悪化する可能性は低いとみられる。こうした点から、ドルは底堅い推移を見せることとなりそう。ドル円は157円台後半から修正安の動きを見せたものの、押したところでは底固く、高値圏でのみみ合いとなりそう。ドル円の目先の予想レンジは、155.00～159.00円。

日米の経済指標やイベントとしては、3日に米5月製造業PMI確報値、米5月ISM製造業景況指数、4日に米4月製造業受注、米4月米月雇用動態調査（JOLTS）求人件数、5日に米5月ADP雇用統計、米5月サービス業PMI確報値、米5月ISM非製造業景況指数、6日に米4月貿易収支、米新規失業保険申請件数、7日に日本4月勤労者世帯家計調査、日本4月景気動向指数速報値、米5月雇用統計などがある。

#### 【ユーロドルはもみ合いながら軟調に推移か】

6日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、0.25%の利下げの可能性が高い。ラガルド総裁はインフレ率の伸びは抑制されているとの見解を示し、6月利下げの可能性を示唆した。他にはビルロワドガロー・フランス中銀総裁、ナーゲル独連銀総裁などが6月利下げを行う可能性が高いとの認識を示している。ラガルド総裁が理事会後の記者会見で、今後の金融政策スタンスにどのような見解を示すかが注目される。

今回の利下げの可能性がかなり高いものの、ユーロドルの動きにはかなり織り込まれているとみられる。こうした中、米国やユーロ圏の経済指標の動向など眺めての推移になりそう。米国で利下げ先送り観測が高まる中、ユーロドルは上値を抑えられやすく、もみ合いながらも軟調な推移が続くこととなろう。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0650～1.0900ドル。

ポンドドルは28日に1.2800ドル近辺まで上昇したものの、ドルの堅調さを背景に軟調な動きに転じている。ただ、ECBは6月利下げが確実視されているのに対し

て、英中銀（BOE）は7月に総選挙を控えていることから、早くも8月、最有力は9月か11月とみられている。このため、ポンドドルは底固く推移して、緩やかに上昇するとみられる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.2600～1.2900ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、3日に中国5月財新製造業PMI、独5月製造業PMI確報値、ユーロ圏5月製造業PMI確報値、英5月製造業PMI確報値、4日に豪第1四半期経常収支、独5月雇用統計、5日に豪第1四半期GDP、独5月サービス業PMI確報値、ユーロ圏5月サービス業PMI確報値、英5月サービス業PMI確報値、カナダ銀行（BOC）政策金利、6日に豪4月貿易収支、独4月製造業受注指数、ユーロ圏4月小売売上高、欧州中央銀行（ECB）政策金利、ラガルド総裁記者会見、7日に中国5月貿易収支、独4月鉱工業生産指数、独4月貿易収支、ユーロ圏第1四半期GDP確報値、カナダ5月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。